



9月1日、厳しい残暑の中、五小に活気が戻ってきました。少し背が伸びたように見える姿、日焼けした笑顔、そして、久しぶりの登校に少し緊張した様子も見られました。一人一人がそれぞれの夏休みを過ごし、再び教室に集ってくれたことを、教職員一同、心からうれしく思います。

始業式では、まず子どもたちに「おかえりなさい！ 無事にここへ戻ってきてくれて、ありがとう！」と伝えました。続いて、2 学期に大切にしたい言葉として、「Chance(チャンス)」について話しました。Chance は、先生や周囲の人から与えられるものだけではありません。友達の何気ない一言がきっかけになることもあれば、自分の勇気から始まることもあります。また、自分の言葉や行動が、別の誰かにとっての Chance を生み出すこともあります。ただ、こうした Chance は、子どもたち一人一人の勇気だけで生まれるものではありません。その言葉や行動を周囲が受け止め、「やってみよう」と思える場や関係があつてこそ、新たな動きが生まれます。

ここで大切にしたいのは、子どもたちに「もっと積極的に行動しましょう」と一方的に求めるのではなく、一人一人が自分なりの形で関わり、動き出せる場を学校が整えていくことです。学校には、子どもたちが自分の考えを安心して表現できる環境、困ったときに「助けて」と伝えられる関係、間違いや失敗を過度に恐れずに試してみることでできる機会をつくる責任があります。こうした心理的安全性があつてこそ、一人の言葉や行動が周囲に受け止められ、次の動きへとつながっていくのです。

五小では、子どもたちが自ら考え、選び、表現する場面を意図的に位置付け、安心して挑戦できる学級・学校づくりを進めています。こうした学校づくりを、子どもたちの具体的な経験として形にする場が、日々の授業や学校行事です。2 学期の様々な活動でも、自分の役割を担い、友達と考えを交わしながら、よりよい方法を選ぶ経験を重ねてほしいと考えています。予定どおりに進まないことや、互いの考えが異なる場面もあるでしょう。そうしたときに、相手の話を聴き、自分の考えを伝え、折り合いを付けながら進む。その経験こそが、子どもたちの学びをより豊かなものにしてけると期待しています。

例えば、授業の中で、一人の子どもが迷いながらも自分の考えを言葉にしたとします。その言葉を受けて、別の子どもが「なるほど」と受け止めたり、「別の見方もできそうだ」と自分の考えを見直したりすることがあります。一人の発言をきっかけに、教室全体の学びが動き始めるのです。

また、困っている友達に「大丈夫？」「一緒にやろう」と声を掛けることも、誰かが次の行動を選ぶための大切なきっかけになります。

もちろん、誰もがいつでもすぐに、自分の考えを言葉にできるわけではありません。友達の話を聴きながら考えを整理する子や、自分にできることを考えながら、静かに活動に向き合う子もいます。

だからこそ、五小では、発言の多さや行動の目立ちやすさだけで、子どもたちの学びへの関わりを判断しません。目に見えやすい行動だけが、学びへの参加の全てではないからです。友達の話にじっくり耳を傾けること。うなずきながら

相手の考えを受け止めること。すぐに言葉にできなくても、自分なりに考え、できる形で活動に加わること。そうした一つ一つも、教室の学びをつくる大切な関わり方です。

こうした多様な参加の在り方を大切にするためには、子どもたちが自分に合った形で関われる入口を、授業や活動の中に用意することが必要です。教職員が、子どもたちの動き出しにつながる場や問い、役割を意図的に設定すること。そして、その中で子どもたち同士が互いの言葉や行動を受け止め、次のきっかけへとつないでいくこと。その両方を、2 学期も大切にしていきます。

さらに、子どもたちが動き出すきっかけは、学校の中だけで生まれるものではありません。家庭で自分の話を聴いてもらった経験、地域の方と交わす挨拶や、いただく励まし、学習や行事を支えてくださる方々との出会いも、子どもたちが新しいことに関わろうとする気持ちの土台になります。

ご家庭では、「うまくできたか」という結果だけでなく、「どのように考えたのか」「誰とどのような話をしたのか」「何に迷い、どう決めたのか」にも、耳を傾けていただければ幸いです。

また、学校生活について気になる様子がありましたら、早めに学校へお知らせください。学校と家庭が子どもたちの様子を伝え合い、必要な対応を一緒に考えることが、一人一人に合った支援につながります。こうした家庭と学校との対話や連携を土台に、2 学期も、子どもたち一人一人が、自分らしい形で学校生活に関わり、安心して学ぶことのできる場を整えてまいります。一人の言葉を、周囲が受け止める。受け取った人が、次の誰かへ手渡していく。そんなきっかけが行き交う五小を、子どもたち、教職員、保護者、地域の皆様とともにつくっていきたいと思います。

さあ、2 学期も、ここから一緒に始めましょう。Go Forward Together!



考えを伝え合う授業

自分の考えを伝え、友達の意見に耳を傾けることで、
学びが広がり、深まっていきます。
「わかった!」「なるほど!」の声が教室にあふれます。



思いやりがあふれる学校

困っている友達に気づき、そっと声をかける。
そんな優しい行動が、安心して過ごせる学校を
つくっています。



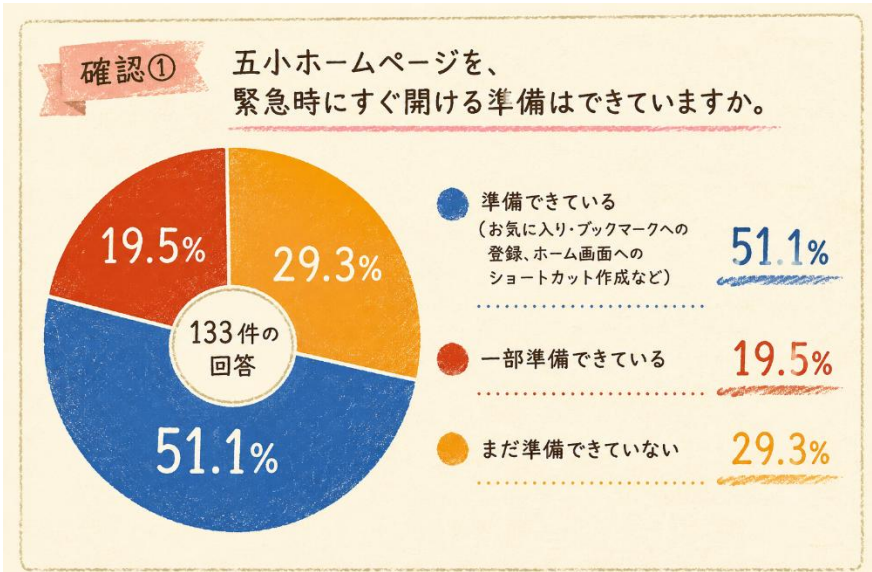
夏休み中に実施した「荒天時の緊急下校先アンケート」には、133 件のご回答をいただきました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

今回のアンケートは、実際に荒天等が予想される状況を想定し、①学校ホームページから緊急情報を確認できるか、②ご家庭ごとの下校方法を学校へ伝えられるか、という一連の流れを確認するために実施したものです。

今回の結果から、学校ホームページを緊急時の情報確認先として利用する流れについて、多くのご家庭に確認していただくことができました。一方で、ホームページをすぐに開くための準備など、実際の緊急時を迎える前に整えておきたい点も見えてきました。

また、荒天時の下校方法は、ご家庭の状況によって異なります。だからこそ、緊急時には「学校から情報を届ける」「ご家庭が確認する」「下校方法を学校へ伝える」という一連の流れを、できるだけ迷いなく行えるようにしておくことが大切です。

なお、今回はあくまでも「練習」ですので、今回入力した下校方法が、実際の緊急時の対応と同じである必要はありません。アンケートは 9 月 4 日まで、再入力や内容の変更もできるようにしてあります。まだお試しになっていないご家庭はもちろん、



すでに回答されたご家庭も、「自宅へ下校する場合」「学校で待機する場合」など、状況を変えながら、ぜひいくつかのパターンで操作を確かめてみてください。

こうした練習を行ったこの夏、各地では地震や豪雨などの自然災害も発生しました。もちろん、こうした緊急対応を実際に行わずに済むことが何よりです。しかし、2 学期も厳しい残暑や急な雷雨、台風などの気象状況に加え、感染症の流行などによって、予定していた下校方法や学校の対応を変更しなければならない場面も考えられます。

だからこそ学校では、今回の取組を一度きりの「練習」で終わらせるのではなく、必要なときに実際に機能する仕組みにしていけることが重要だと考えています。今回いただいた回答や実施して見えてきた課題を基に、情報の伝え方、確認方法、下校対応などをさらに点検してまいります。

そして、備えは学校だけで完結するものではありません。今回の結果をきっかけに、ご家庭でも「急に下校方法が変わったらどうするか」「保護者がすぐに迎えに行けない場合はどうするか」

「家族同士でどのように連絡を取り合うか」「災害時にはどこで待ち合わせるか」など、お子さんと一緒に話題にしていただければと思います。学校ホームページをお気に入りやブックマークに登録しておくことも、今すぐできる備えの一つです。

緊急事態は、起きてから考えるのでは間に合わないことがあります。だからこそ、何も起きていない今のうちに、学校と家庭がそれぞれにできる準備を確かめておく。その積み重ねが、いざというときに迷わず動き、子どもたちの安全を守ることにつながります。

実際には、この仕組みを使わずに済む 2 学期であることを願っています。それでも、必要になったときには確実に使えるように、学校と家庭と一緒に、「もしも」に備える準備を進めていきたいと思っています。

